

2026
1月号
Vol.119

や わ た は ま

この社協だよりの発行には、赤い羽根共同募金の
配分金が財源の一部として活用されています。

社協だより



八幡浜市社協の各種SNSはこちら



Instagram



Facebook



公式LINE



ホームページ

[発行] 社会福祉法人 八幡浜市社会福祉協議会

八幡浜市松柏乙1101番地 八幡浜市保健福祉総合センター2階

TEL 0894-23-2940 FAX 0894-23-0506



謹賀新年

第9回 赤い羽根共同募金

チャリティパーティー

in 八幡浜



新年、明けましておめでとうございます。
地域住民の皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
旧年中は、社会福祉協議会の事業推進につきまして、多大なるご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

さて、2023年に「こども家庭庁」が発足し、本市に於いても昨年4月に「こども家庭センター」が設置されました。子どもたちの成長に街が、地域が、どのように関わることでできるかが問われています。一方、高齢者や障がい者にとっても安心・安全な福祉の街づくりは、子どもやその家庭においても優しい街に通じる面もあります。分野にとらわれず、誰もが住み慣れた地域でその人らしく暮らせるよう、当会としても地域住民の皆さま方と共に邁進して参る所存です。

この新しい年が、より佳き年になるよう心より祈念致します。本年も変わらぬご支援ご厚誼を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



八幡浜市社会福祉協議会
会長 山崎 利夫



コロナ禍をはさみ9回目の開催

令和7年9月5日(金)19時00分〜20時30分、みなと交流館との共催により、「第9回赤い羽根共同募金チャリティパーティーin八幡浜」を開催しました。このイベントは、参加券をご購入くださった方、飲食料品やおたのしみ抽選会の景品をご提供いただいたお店や企業など、多くのご支援・ご協力を得て開催しています。

165名にチケットを購入いただき、当日は157名の出席を得て、にぎやかに開催することができました。参加者の皆さんは、顔なじみ同士や久しぶりの再会な

赤い羽根共同募金運動 楽しみながら寄付！ 9回目のチャリティパーティー



協賛者様提供商品による抽選会

ど、それぞれの形で交流を楽しんでいたできました。パーティー最後に行った恒例のおたのしみ抽選会では、協賛者様にいただいた多くの商品等を景品に、大変盛り上がりしました。

今回も参画くださいました皆さまのご協力により、赤い羽根共同募金に多くの寄付を行うことができました。収支決算報告と協賛者様のご紹介をいたします。

赤い羽根共同募金は、「じぶんの町を良くするしくみ」。今回集まった寄付も、身近な地域福祉活動に活用させていただきます。

協賛者様一覧 (敬称略・順不同)

- | | | | | | | | | | | | |
|----------------|-------------|------------|-------------|---------|----------|-----------------|-----------|--------------|----------|-----------|------------|
| ■ 月桂冠酒造 | ■ 雲雀酒造 | ■ 栄光酒造 | ■ 合同酒精 | ■ 三宅本店 | ■ 小山本家 | ■ 宝酒造 | ■ 梅錦山川 | ■ ポッカサッポロ | ■ キリンビール | ■ アサヒビール | ■ サントリービール |
| ■ (一社)八幡浜青年会議所 | ■ 愛媛銀行八幡浜支店 | ■ (株)あわしま堂 | ■ 伊方サービス(株) | ■ 宮川菓子舗 | ■ フジ八幡浜店 | ■ 愛媛南部ヤフルト販売(株) | ■ 八幡浜センター | ■ (株)JAにしようわ | ■ (株)アキタ | ■ 西野金陵(株) | ■ (株)谷本蒲鉾店 |
| ■ どーや市場 | | | | | | | | | | | ■ (有)菊池本店 |



収支決算報告

収入

勘定科目	決算額	摘 要
会費収入	412,500	パーティー参加券 @2,500円×165枚
交 付 金	150,000	
合 計	562,500	

支出

勘定科目	決算額	摘 要
飲食料費	249,737	飲料代、オードブル代 他
消耗品費	25,345	お皿等小物代 他
雑 費	10,862	クリーニング代 他
合 計	285,944	

収入合計 562,500円
 支出合計 285,944円
差引合計 276,556円

収益金は、全額八幡浜市共同募金運動へ寄付しました。

全国社会福祉大会

八幡浜市民が表彰されました！

令和7年11月12日（水）、東京都・浅草公会堂にて、令和7年度全国社会福祉大会が開催されました。この大会では、厚生労働大臣、全国社会福祉協議会会長、中央共同募金会会長からの3つの表彰が行われます。

今回、八幡浜市から2名の方が表彰されましたので、ご紹介します。

【全国社会福祉協議会会長表彰】

○社会福祉協議会・民間社会福祉団体功労者

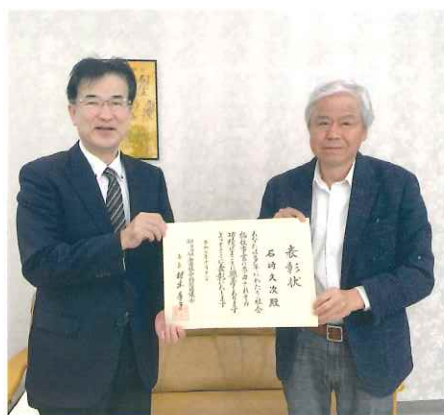
福祉団体功労者

石崎久次 さん（八幡浜市社会福祉協議会評議員）

【中央共同募金会会長表彰】

○奉仕功労者

徳島守 さん



石崎久次さん（右）

石崎さんは、平成23年より真穴地区社会福祉協議会の会長として、徳島さんは白浜地区民生委員児童委員協議会の会長として、社会福祉の推進にご尽力いただいています。

この度は、本当におめでとうございませう。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



徳島守さん

愛媛県社会福祉大会

長年の地域活動に感謝して

令和7年11月5日（水）愛媛県県民文化会館において、第73回愛媛県社会福祉大会が開催されました。長年にわたり社会福祉の発展にご尽力され、多大な功績を残されている八幡浜市民の方々が表彰されました。

【愛媛県知事表彰】

○民生・児童委員

道岡榮子さん（日土）

○社会福祉事業施設従事者

第1種社会福祉事業施設従事者

二宮美映さん（児童養護施設

八幡浜少年ホーム）

【愛媛県社会福祉協議会会長表彰】

○民生委員・児童委員功労

大西千恵美さん（白浜）

寺嶋利子さん（日土）

○優良社会福祉協議会

川之石地区社会福祉協議会



谷本啓子さん



大西千恵美さん

【愛媛県共同募金会会長表彰】

○奉仕功労者

菊池昭良さん（神山）

谷本啓子さん（双岩）

【愛媛県民生児童委員協議会会長表彰】

○永年勤続

那須慶子さん（川之石）

会場では、SELP製品（愛媛県内の障がい者就労支援事業所等で障がいのある方が作った製品）の販売イベントも同時開催されており、製品を手取るなど、イベントを楽しんでいる方の姿もありました。

この度は、おめでとうございませう。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



さまざまな繋がりを大切に 木村謙児さん、緑綬褒章受章!!

令和7年11月2日(日)、秋の褒章が発令され、木村謙児さんが緑綬褒章を受章されました。

木村さんは、八幡浜市ボランティア協議会(以下、ボラ協)前会長。ボラ協の立ち上げ以前から、八幡浜市内外を問わず、様々な団体と繋がりが、団体同士の繋がりがも大切にしてくれました。

木村さんが積極的にボランティア活動に関わり始めたきっかけは、高校2年生のときに行った八幡浜学園(以下、学園)。学園では、様々な出会いや学びがあり、中でも、当事者やその人と関わっている人の声を聴くことの大事さを学んだとお話いただきました。これは、学園の職員の方から、学園や障がいのことを教わる中で、「ボランティア活動が、その人の日常生活に影響を及ぼす」ことを実感したいことをするのではなく、その人にとって必要なことに沿った活動が重要であると気付いたから。それ以来、当事者とのやりとりを一層大切にしてこられたそうです。

「繋がりの楽しさを知っているからこそ、活動を続けられる」と



「皆さんのおかげ!!」と木村さん

笑顔を見せてくださった木村さんは、12月に70歳の誕生日を迎えられました。「年を重ねたからこそ、できることを若い世代に伝え、つなげたい。ボランティア活動は、地域の活力だから!!」と、これらに対する想いも教えていただきました。

今回の受章を機に、久しぶりの再会もあったようで、受章の喜びに加えて、一段と嬉しさが込み上がったようです。

木村さん、貴重なお話をありがとうございました。本当におめでとうございます。

介護保険事業所 ICTとの協働スタート

ICTとは、情報通信技術と訳され、通信機器を活用してコミュニケーションを図ったり、情報を共有したりすることなどを指します。近年、教育や医療福祉などの現場でも利活用が促進されており、八幡浜市社協でも導入を始めています。

令和7年4月、保内町にある本会介護保険事業所でもICTを本格導入しました。

訪問介護事業では、利用者の方の支援をした際、提供したサービスをサードサービス実施報告書(以下、報告書)に記入し、毎月末にサードサービス実績をケアマネージャーへ報告します。

ICTを導入する前、本会では、紙媒体に記入された報告書を、サードサービス提供者がパソコンに毎日入力し、実績を報告していました。今回の導入を受け、各訪問介護員が、提供したサードサービス内容をスマホに入力すると、その情報が事業所のパソコンに反映されるため、報告書の提出がなくてもすぐに提供内容を把握できるようになりました。

また、スマホとパソコンの情報



数人分をまとめて入力することもあります

が共有されるため、訪問介護員は、サードサービス提供者からの指示をリアルタイムで確認することができま。今はまだ、慣れない部分も多くありますが、今後も事業を継続し、さらに充実した支援が行えるよう、ICTの活用を進めていきます。

【訪問介護員の感想】

- ・とても便利になった。
- ・訪問先で記録ができるため、支援に集中できる。
- ・支援中にスマホを触ることを、利用者やご家族が理解してくださるため安心して活用できる。

災害ボランティアセンター設置運営訓練 復旧・復興に向けてできる支援・協働の形とは

令和7年10月13日（月・祝）10時～16時、道の駅みなとオアシス八幡浜みなと内みなと交流館にて、『災害ボランティアセンター設置に係る研修及び訓練』を開催しました。当日は八幡浜市社協から16名、関係機関・団体から28名が参加しました。

八幡浜市は平成30年7月に豪雨災害を経験しましたが、災害ボランティアセンター（以下、災害VC）を立ち上げることなく、通常のボランティアセンター機能の中で被災者支援を行いました。そのため、八幡浜市社協では災害VCを設置した経験がありません。一方、毎年全国各地で豪雨等により多くの被害が発生していると共に、南海トラフ地震でも大きな被害が想定されています。

災害VCはボランティア等の力を借りながら一日も早い生活再建を目指すものであり、社協だけで取り組むことは困難です。関係機関との協働の在り方を模索するためにも、行政、地区社協、防災士（公民館）、ボランティア団体、当事者団体、教育関係者、愛媛大学等様々な方に参加をいただき、開

催することができました。

講義『被災地に寄り添う災害ボランティアセンター運営』

前半は、日野ボランティア・ネットワークの山下弘彦氏より、ご講義いただきました。

山下氏は、鳥取県の日野町在住。鳥取県では、2000年に西部地震が発生し、最大震度6強の揺れに襲われました。死者・行方不明者はいなかったものの、負傷者や多くの家屋の被害がありました。山下氏はこの地震を機にボランティアグループを結成し、災害復



被災者支援で大切なことを語る 山下氏

興活動を展開。現在に至るまで地域づくり等を積極的に推進しています。また、全国各地の被災地に赴き、災害VC運営支援等も行っています。

講義では、山下氏自身が様々な被災地・被災者支援から得た知見を伝授いただきました。災害時に、何をどう支援するのか。日常性を取り戻し、今後の暮らしに希望を持てる支援ができるよう、災害VCや参加者個々人ができることにについて、考えるためのたくさんのヒントをいただきました。

訓練『災害VC設置運営訓練／情報共有会議訓練』

午後からは、豪雨災害を想定し、行政と八幡浜市社協の協議の上災害VCを設置したとして、訓練を行いました。

社協職員が災害VCスタッフ役を担い、被災者の困りごとを受け付ける「ニーズ班」、ボランティアを受け入れる「受付班」「オリエンテーション班」「マッチング班」「資材班」、そして「総務班」に分かれて配置しました。

社協職員以外の方々も、困りごとを抱えた住民役や災害VCを訪れたボランティア役を担っていただき、リアリティのある訓練ができました。



ロールプレイから様々な気づきを得る

また後半は、災害支援を行っている関係団体で情報を共有するために開催する「情報共有会議」のデモンストレーションを行いました。

最後に山下氏からいただいた総括では、「災害VCを運営しながら、勇気を持って新たな方法を取り入れたり、元々の方法を変えたり、試行錯誤していくことが大切。災害VCは職員も住民もみんなで話し合いながら練り上げていくもの。今回は職員として、災害VCのことを説明できるようにするための訓練だった」と講評をいただきました。



ボウリング交流会の様子

30年以上に渡り開講している精神保健ボランティア養成講座は、市内で活動している精神保健ボランティアグループ『はまかぜ』の皆さんの名前をお借りして、『はまかぜ♡スクール』という名称で親しまれています。この講座は、精神障がいを抱える当事者が安心して暮らすために、良き理解者や応援者を増やすことを目的に開講しています。第1回講座では「心のサポーター養成講座」を開催し、身近な人の心の不調に気づくこと、心の手当てをすることについて学びました。続く第2回講座では精神障がいを抱える当事者とのボウリング交流会を行いました。



講座でのグループワークの様子

第3回から第5回講座までは、障がいの有無に関わらず安心して地域で暮らすことについて考えたり、精神障がいを抱える当事者の暮らしや福祉サービスについて学びました。最終日には、精神保健ボランティアグループはまかぜの会員の皆さんの活動報告や交流を行いました。今回の講座では9名の方が修了されました。受講生からは「今まで知らなかったことを学べて良かった」「ボウリング交流会も楽しかった」などの感想をいただきました。

来年度も本講座を開講予定です。皆さまのご参加をお待ちしています。

令和7年度 『精神保健はまかぜ♡スクール』開講
「誰もが安心して暮らせる八幡浜を目指して」



多くの方が関心を寄せました

令和7年9月23日（火・祝）、八幡浜市民文化活動センターComican 忠八ホールにて、八幡浜聴覚障害者協会と手話サークルあゆみの会の主催で映画上映会が開催されました。

この映画は、コーダ（きこえない、またはきこえにくい親を持つ、きこえる子）である主人公が、「きこえる世界」と「きこえない世界」の狭間で葛藤する様子や日常をリアルに描いた作品です。

すでに愛媛県内の映画館においても上映されていましたが、限られた期間での公開だったため、今回の上映会実施が決まりました。

映画上映会
「ぼくが生きてる、ふたつの世界」



世界平和を表す青色

当日は、昼と夜の2回上映で、どちらも八幡浜市内のみならず、県内様々な市町から、合わせて593名の方にご来場いただきました。

また、この日は国連が定めた「手話言語の国際デー」であり手話施策推進法における「手話の日」。世界ろう連盟のロゴの色である青色で、会場をライトアップし、手話の日を盛り上げました。

また、今年6月28日（日）には、愛媛県聴覚障害者大会がComicanで開催されます。聴覚障がいについて知る、良い機会となりました。

八幡浜市心配ごと相談所事業

介護保険の認定って
受けた方がいいの？

最近物忘れが多く
なってきたけど
大丈夫かな？

家族の介護、
どう接したらいいか
分からない…

新規開設 / 社会福祉士による

介護認知症相談

相談無料
予約不要

日 時 令和8年1月26日(月) 13:30～15:00
2月24日(火) 13:30～15:00
3月23日(月) 13:30～15:00

場 所 八幡浜市保健福祉総合センター 2階 相談室

介護や認知症についてなにか不安や心配はありませんか？
今のことやこれからのこと、一緒にお話ししましょう。



映画上映会 (バリアフリー日本語字幕付き上映)

(UDCast で音声ガイドもあり)

入場無料 (上映時間101分)

どうすればよかったか？



(C) 2024 動画工房ぞうしま

監督・撮影・編集

藤野 知明(ふじの・ともあき)氏

日時 令和8年1月23日(金)
18時30分～ (開場 18時00分)

場所 八幡浜市民文化活動センター
Comican (コミカン) 忠八ホール

八幡浜市社会福祉大会(8ページ参照)とは別途、映画上映を行います。

なお、この日は監督による講演はありません。

鑑賞を希望される方は、右記の方法にて事前にお申込みください。

【申込方法】

①申込フォーム▶▶▶

②電話

(0894) 23-2940



令和7年度 八幡浜市社会福祉大会

日付：令和8年1月24日（土）

場所：JAにしよう5階スターホール

八幡浜市の社会福祉の発展にご尽力され多大な功績を残された方々を、感謝をこめて表彰します。そして、誰もが安心して暮らせる地域づくりの実現に向けた活動に、一人ひとりが考え参画する機会と、地域福祉のさらなる充実を目指します。

時 間	内 容
12時30分	開場・受付
13時30分	開会 式典 表彰・感謝状贈呈 他
14時10分	映画上映及び監督による記念講演
16時30分	閉会

映画上映会 (バリアフリー日本語字幕付き上映) 監督による記念講演 (UDCast で音声ガイドもあり)

入場無料

※関係者以外要予約▶
※前日別途「映画上映会」実施。
詳細は7ページに掲載



どうすれば
よかったか？

面倒見がよく、絵がうまくて優秀な8歳ちがいの姉。両親の影響から医師を志し、医学部に進学した彼女がある日突然、事実とは思えないことを叫び出した。統合失調症が疑われたが、医師で研究者でもある父と母はそれを認めず、精神科の受診から姉を遠ざけた。その判断に疑問を感じた弟の藤野知明（監督）は、両親に説得を試みるも解決には至らず、わだかまりを抱えながら実家を離れた。

このままでは何も残らない——姉が発症したと思われる日から18年後、映像制作を学んだ藤野は帰省

ごとに家族の姿を記録しはじめる。一家そろっての外食や食卓の風景にカメラを向けながら両親の話を耳を傾け、姉に声をかけつづけるが、状況はますます悪化。両親は玄関に鎖と南京錠をかけて姉を閉じ込めるようになり……。

20年にわたってカメラを通して家族との対話を重ね、社会から隔たれた家の中と姉の姿を記録した本作。“どうすればよかったか？”正解のない問いはスクリーンを越え、私たちの奥底に容赦なく響きつづける。



監督・撮影・編集

藤野 知明(ふじの・ともあき)氏

1966年北海道札幌市生まれ。北海道大学農学部林産学科を卒業後、社会人生活を経て日本映画学校映像科録音コースに入学。千葉茂樹監督に師事。卒業後は、TV番組、PV、CG制作などの傍ら映像制作を続ける。2012年、家族の介護のため札幌に戻り、13年に浅野由美子と「動画工房ぞうしま」を設立。主にマイノリティに対する人権侵害をテーマとして映像制作を行なっている。

(C) 2024 動画工房ぞうしま